

北海道ブロック高校選手強化事業及びU-18北海道ブロックエンデバー
全日本ジュニア北海道ブロック選手選考合宿を終えての雑感

北海道ブロックエンデバー コーチ
横嶋 暢貴

今年度のU-18北海道ブロックエンデバー及び高校選手強化全日本ジュニア北海道ブロック選手選考合宿が2月14日、15日の2日間、札幌北斗高等学校を会場にして男女合同で行われました。

日本協会から育成部長であられる大滝和雄先生、札幌山の手高等学校のコーチでもある育成委員の上島正光様をお迎えしてスタートしました。開会式の中で、大滝先生より、現状のU-18・U-16の育成と強化についてのお話があり、特にU-18からはアジア大会・世界選手権等、国際大会に通用する選手強化が必要とのお話があり、選手達は真剣な眼差しで耳を傾けていました。

また、エンデバー活動は、今までの一貫指導システムを踏襲して、これからも指導してほしいとのことでした。

開会式の後、円陣を組み、今後日本を代表する、北海道を代表する選手となってほしい趣旨を伝え基本の大切さを話し、確認事項として、昨年も足の弱さ、体幹の弱さが目立った反省から、足腰の強さを強調したパワーポジションについての説明、OFEでの空間支配(間の取り方)タイミング(時間的認知)とスペーシング(空間的認知)、DEFではスタンス、ビジョン、ポジション、コミュニケーション、ウイルの5原則の話をし、ボディバランスを強調してフットワークでOFE・DEFの基本を入れ、シュートの基本から取り組むことにして始めました。

ミートキャッチからのジャンプシュートドリルを行ってみたところ、今年も選手個々のファンダメンタルの違いがあり、パス、ドリブルに対するミートキャッチ・ボールを持つトリプルスレットの位置・パワーポジション・ピポット等、個人での練習をもっとしっかりと行わなければならないと感じました。

これからの日本は、「走力、敏捷性、スピードを最大限に活かした、平面的でハイペースなバスケットボール」で戦わなくてはなりませんし、小さくとも、組織的で変幻自在なディフェンス、オフェンスにおいてはスピーディーな展開からの高い成功率を誇るアウトサイド・シュートが大きな武器だと思いますし、それが今後日本の基盤となっていくものと思いますが、北海道の選手はどうなのだろうか?と今回の合宿を通じて、考えさせられた部分が多々ありました。

U-18年代はさらなる高さや速さを求めつつも、同時にそこでの不利を履すためのプラス α を求めていかなければならないと考えます。

一瞬でも速く、少しでもいいポジションを取り、高確率で、高い質でプレーすることを深く追求していくことを考えられる選手育成が大切だと思います。エンデバー活動で言われている、一つひとつのプレー、瞬間、瞬間の勝負で小さな（マイクロ）の勝利を重ねていくことで、試合全体（マクロ）の勝機を見いだしていく「マイクロ～マクロ」の考え方をあらゆる点に適応させていくことが求められていると思います。

今回集められた北海道の選手もあらゆる点において「頭脳的に、繊細・緻密に、そして熱心に」行動できることを目標にしてほしいと思いますが、現実には、まだまだ声の大きさ、行動の素早さなどバスケットボールの技術以前の部分も多々あり、常にファンダメンタルを大切にとことんやる、出来るまでやる心も育んでいかなければとも指導者として感じた2日間でもありました。

強い日本を担う若い選手（特に男子）はどんな時も、真面目に全力で取り組む姿勢が最低条件と考え、強い心と体、そしてファンダメンタルの大切さを理解実践して、強い日本のバスケットボールが出来上がるようお願い、U-18北海道ブロックエンデバー及び高校選手強化全日本ジュニア北海道ブロック選手選考合宿を終えての報告とさせていただきます。

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会